

建築物名称	東洋レヂン株式会社 研究開発施設増築工事
受付日	令和3年3月16日
建物所在地	静岡県富士市比奈字馬乗石1929-2、1929-3、字馬背久保1947-2、1948-10、字東坂2316-3
構造規模等	鉄骨造／地上2階／延床面積2,230.04平方メートル／新築
建物用途区分	事務所、工場
建築主	東洋レヂン株式会社 代表取締役 井出 茂昭
設計者	株式会社水野建築事務所 水野 芳康
工事完了予定日	令和4年2月15日

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東洋レヂン株式会社 研究開発施設	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市比奈字馬乗石1929-2	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、市街化調整区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年3月9日
敷地面積	3,022 m ²	作成者	(株)水野建築事務所
建築面積	1,196 m ²	確認日	2021年3月10日
延床面積	2,230 m ²	確認者	(株)水野建築事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 86%
④上記+ 86%

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 室内環境、サービス性能への配慮 敷地内外環境への配慮 エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 特に無し 	
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 内装仕上はF☆☆☆☆品又は、告示対象外品を採用等、化学汚染物質の削減に努めている・床面積の1/30以上の自然換気有効開口面積を確保・全館禁煙としている 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 事務室の天井高さに配慮している・執務室面積の1%以上のリフトスペースを確保・防汚性の高い建材の採用・給排水配管は上位3種がB以上、Eは不使用・階高3.9m以上、壁長さ比率: 0.16等、空間のゆとりを配慮している 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 緑地計画有り
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> BPI=0.86 BEI=0.76 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 水栓、便器は節水型を採用している・LGS地下、OAフロア採用・有害物質を含まない防水工事のプライマー採用等、化学物質の使用削減に努めている・断熱材はGWPが低い材料を採用し、フロン、ハロンの回避に努めている 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> LCCO₂排出率86%と削減し、地球温暖化防止に配慮・ガス設備設置無し等、大気汚染防止に配慮・光害の抑制に努めている

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	東洋レヂン株式会社 研究開発施設増築工事	BEE	1	BEEランク B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4 /5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつつ 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給排水配管は上位3種がB以上、Eは不使用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	② 昼光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	③ 昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	④ 躯体材料の耐用年数	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出	
	3 3.2 ⑥	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI_m=0.86 ⑨BEI_m=0.76 	LR-1 1 ⑦	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制
		2 ⑧	⑧ 自然エネルギー利用
3 ⑨		⑨ 設備システムの高効率化	
4 4.1 ⑩		⑩ モニタリング	
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓、節水コマに加え省水型便器を採用 ⑫解体時の分別が容易な工法及びOAフロア採用 ⑬有害物質を含まない防水工事のプライマー採用 ⑬土間下ポリスチレンフォーム、グラスウール採用 	LR-2 1 1.1 ⑪	⑪ 節水	
	1.2 1.2.1 ⑫	⑫ 雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2 ⑬	⑬ 雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1 ⑫	⑫ 材料使用量の削減	
	2.2 ⑫	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	2.3 ⑫	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4 ⑫	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	2.6 ⑫	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1 ⑬	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1 ⑬	⑬ 消火剤		
3.2.2 ⑬	⑬ 断熱材		
3.2.3 ⑬	⑬ 冷媒		
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO₂排出率86% 	LR-3 1 ⑭	⑭ 地球温暖化への配慮	
	2 2.2 ⑮	⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	⑯ 耐震性	
	2.1.2 ⑯	⑯ 免震・制振性能	
	2.4 ⑰	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	⑰ 電気設備	
	2.4.4 ⑰	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	⑰ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高3.9m以上 ㉑壁長さ比率:0.16 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑳	⑳ 階高のゆとり	
	3.1.2 ㉑	㉑ 空間の形状・自由さ	
	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1 ⑤	⑤ 生物環境の保全と創出	
	2 ②	② まちなみ景観への配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 	LR-2 2 2.5 ⑫	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3 2 2.2 ⑮	⑮ 温熱環境悪化の改善	